

日独交流160周年記念企画展「獨協学園の歩みとその役割」



2021年は、日独交流160周年でした。これは日本とドイツ(当時のプロイセン)が「修好通商条約」を締結した1861年が、両国の外交関係樹立の年とみなされているからです。日独交流の歴史の中で生まれ発展した教育研究機関である獨協学園では、これを機に、獨協学園史資料センター主催、獨協大学外国語学部ドイツ語学科共催で、「獨協学園の歩みとその役割」と題する記念のパネル展を開催することになりました。

会場：獨協歴史ギャラリー
(天野貞祐記念館1階)

開室日：月曜日～金曜日 10:00～16:45



名誉教授
柿沼 義孝
(かきぬま・よしとか)

1979年に専任講師として着任してから43年間、卒業生をはじめとして、学生諸君、教職員の皆様には大変お世話になりました。そして、本当に楽しい日々をありがとうございました。これからの獨協大学の発展を心からお祈りしています。

訃報

親交のあった方々に、メッセージをお寄せいただきました。生前のご功績を偲び、謹んで哀悼の意を表します。(順不同)



川崎 潔(かわさき・きよし)
名誉教授

2022年1月3日 誤嚥性肺炎のため死去、85歳
1983年 教授
1988年 外国語学部教務主任
2006年 名誉教授

川崎潔先生は、国際基督教大学(ICU)の教養学部を卒業後、同大学の大学院に進学され、教育哲学と英語教育の修士号を取得されました。その後、1973年に本学英語学科の教員として着任され、各種の委員や委員長を務める一方で、主にシェイクスピア作品と欽定訳英語聖書の語法に関する研究をされ高い評価を得られました。本学での教育においては、愛情をもって学生に接し、多くの学生から慕われていました。ICUで学ばれたりペラルーツ教育を実践されたのだと思います。本学へのご貢献に深く感謝しつつ、安らかな眠りにつかれますよう謹んでお祈り致します。

外国語学部教授 佐々木 輝美(ささき・てるよし)



琴野 孝(このの・たかし)
名誉教授

2022年1月26日 病気のため死去、97歳
1987年 教授
1990年 国際交流センター所長
1995年 名誉教授

琴野孝先生は戦後の日本のオーストラリア社会・経済の最初期の研究者でした。昭和22年、東京帝国大学経済学部卒業ののち、北海道大学、慶応大学、城西大学をへて昭和62年～平成7年、獨協大学経済学部教授で教育、研究に従事。また、メルボルン大学、ニューサウスウェールズ大学など多くの海外大学で客員教授を歴任し日本の大学国際化に多く貢献されました。

経済学部准教授 益山 光央(ますやま・みつお)



佐藤 唯行(さとう・ただゆき)
外国語学部英語学科教授

2022年2月15日 病気のため死去、67歳
1987年 英語学科専任講師
1990年 助教授
1997年 教授

「手書きには暖かみがあると、喜んでくれる人もいます…。」
書類は活字で作ってほしいと、学科長時代の私が求めた。その時のさりげない一言が忘れられない。十数冊に及ぶ著書の原稿、授業のプリント、会議資料…、すべて手書きを通した。その手書きの文字のように、飾らずに暖かい。私の知る佐藤唯行先生である。

それとなく私の好きな戦国史に話題を合わせてくれた。私が落ち込んでいると、ラーメン店に誘い出してくれた。今年も手書きの文字だけの年賀状。先生らしいなと、思わず微笑んだばかりだったのに…。

佐藤先生、長い間本当にありがとう。どうぞ安らかに。合掌

外国語学部教授 杉山 晴信(すぎやま・はるのぶ)



深谷 満雄(ふかや・みつお)
名誉教授

2022年1月11日 病気のため死去、89歳
1981年 教授
1985年 ドイツ語学科長
2003年 名誉教授

ご専門の国際政治に関する深い知見、諏訪根自子のヴァイオリン、楽しいお酒、深谷先生から教えていただいたことを挙げたらきりが無い。ご自宅にお邪魔し、時には話し込んでそのまま泊めていただくこともあった。現代ドイツ政治に関する批評、早大生時代の武勇伝、眼鏡越しにはにかむ様に微笑みながら、ぼそぼそとお話しなさる姿が、今も目に浮かぶ。著名な政治学者H.K.ループ先生のご著書を共訳する機会を与えてくださり、それが縁でお二人の友情の輪に加えさせていただいたことも、かけがえのない宝物だ。敬愛する先生のご冥福を、心よりお祈りしたい。

外国語学部教授 山本 淳(やまもと・あつし)